

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成22年5月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4093200113
法人名	株式会社 裕生堂
事業所名	グループホーム 陽だまり倶楽部東大利
所在地 (電話番号)	福岡県大野城市東大利3-11-28 (電話) 092-589-5678
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年3月30日

【情報提供票より】(平成22年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 21年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造	
	2 階建ての 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000~72,000 円	その他の経費(月額)	14,100 円	
敷 金	<input checked="" type="radio"/> 有 (100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成22年3月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	8 名	女性	名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.25 歳	最低	72 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いまさと内科、大賀歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、大通りから少し入った閑静な住宅街の中に位置し、暮らしやすい生活環境に恵まれている。薬局を経営する法人を母体としており、同一敷地内に有料老人ホームがあり、また同じ市内にも姉妹のグループホームがある。設立間もないホームであるが、理念の一つ「地域との交流を図り、ふれ愛豊かな施設作りを目指す」は、地域密着型サービスとしての意義を十分踏まえたものであり、地域行事へ参加したり月2回の小学生のホーム訪問等で地域と親交を深めており、利用者の楽しみの一つとなっている。利用者の表情は穏やかで明るく生き生きとしている。職員の離職もなく、理念の中の「誠心誠意お話をする」をモットーに職員が一丸となって、利用者と共に過ごし、支援している姿がうかがえ、今後に期待がもてるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 初めての外部評価である為、該当なし。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全員が記入し話し合いを行なって、管理者・主任がまとめている。職員は「日々の業務を振り返ることが出来る」と、評価に対する意義を理解している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催している。参加者は家族、地域の区長、民生委員、小学校職員、市役所の介護サービス課、地域包括センターの職員、施設長、管理者、ホーム職員等である。内容は運営推進会議の意図の説明や利用者の状況、行事等の説明を行っており、参加者から餅つきの知恵や鏡餅の作り方など色々な知恵や助言を頂いている。次回は、外部評価の結果報告を行なうようにしている。今後は短時間でも利用者が参加できるよう検討している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 気軽に話し合える雰囲気づくりを大切にしており、常に「苦情は宝である」ことを意識し、意見を言ってもらえるよう努めている。家族の訪問時、電話などで日常の様子を報告し、金銭管理、特に健康状態の変化についてはその都度報告をしている。また毎月「陽だまり通信」を発行し、金銭報告や近況状況等メッセージを添えて郵送している。また職員の異動等の報告もしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎日の散歩時には、近隣の方と挨拶を交わしており、近隣との友好関係が築かれている。地域行事の夏祭りや小学校の運動会などには招待してもらっている。ホーム内の餅つき等イベントには地域の方、老人会、小学生等に来てもらっている。特に小学生は月2回ホームに来てもらい、ゲームをしたり折り紙作品を作って積極的な交流が行なわれており、利用者の楽しみの一つになっている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. 老人介護の社会的使命に徹する。 2. 地域医療の一翼を担うという自覚を持つ。 3. お年よりは自分がいつか通る道、誠心誠意お世話をする。 4. 地域との交流を図り、ふれ愛豊かな施設作りを目指す。 という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は人目につきやすい玄関に掲げている。毎朝、朝礼時に理念の唱和を行なっている。日々の暮らしの中で理念に添った介護をしているか重視しており、月1回職員会議時には必ず理念に添って介護を行なうよう話し合いをしている。また理念から外れている時は、その都度注意を促している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩時には、近隣の方と挨拶を交わしており、近隣との友好関係が築かれている。地域行事の夏祭りや小学校の運動会などには招待してもらっている。ホーム内の餅つき等イベントには地域の方、老人会、小学生等に来てもらっている。特に小学生は月2回ホームに来てもらい、ゲームをしたり折り紙作品を作って積極的な交流が行なわれており、利用者の楽しみの一つになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員が記入し話し合いを行なって、管理者・主任がまとめている。職員は「日々の業務を振り返ることが出来る」と、評価に対する意義を理解している。また外部評価の結果は職員間で検討し、改善すべきは、皆で意見交換をして改善に向け取り組むようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	気軽に話し合える雰囲気づくりを大切にしており、常に「苦情は宝である」ことを意識し、意見を言ってもらえるよう努めている。家族の訪問時、電話などで日常の様子を報告し、金銭管理、特に健康状態の変化についてはその都度報告をしている。また毎月「陽だまり通信」を発行し、金銭報告や近況状況等メッセージを添えて郵送している。また職員の異動等の報告もしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告書提出時等に、ホームが抱えている問題の相談や地域の協力連携の仕方を相談し助言をもらっている。また役所より認定調査の依頼を受けたり、保健師の研修場所としてホームを提供したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は外部研修に積極的に参加し、3ヶ月に1回は内部研修や伝達研修を行なっている。現在成年後見制度を利用している人はいないが、契約時や入居前は資料等を渡し説明を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話などで日常の様子を報告している。金銭管理、特に健康状態の変化についてはその都度報告をしている。毎月「陽だまり通信」を発行し、金銭報告や利用者の近況等を職員のメッセージを添えて郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等と気軽に話し合える雰囲気づくりを大切に、家族が意見等を言えるように配慮している。また「陽だまり通信」の中に家族が意見等を記入できるようにしており、「苦情は宝である」という意識を大切にしている。普段の会話を大切にしている為、今のところ苦情はない。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、離職は理由によっては避けられないものであるが、異動については抑える事が可能なので極力異動をしないように考えている。引継ぎ期間は2～3ヶ月としており、新任と重複期間をもって引継ぎを行なうようにしており、利用者にはダメージは見られない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては性別年齢を問わず行っており、20歳代から50歳代まで幅広く採用している。採用に当たっては理念を十分に理解できる職員を望んでいる。職員が活き活きと勤務できるよう、社会参加や自己実現、趣味活動等での有給等の休みが取りやすいよう勤務体制の配慮がされている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人材担当者が本部で行なわれる人権啓発セミナーに参加し、管理者の教育を行なっている。職員には伝達研修したり、利用者の人権尊重について話し合いの機会を持ったりして、教育啓発活動に努めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画書を作成している。福岡県グループホーム協議会に入会しており、新任、中堅クラスなどの段階に応じて研修を行なっている。外部研修は出勤扱いとしており、資格取得も推進している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に入会しており、研修時他のグループホームと交流する機会が多い。他事業所からグループホームに見学に来たり、他事業者で行なわれる研修会に参加したりして学ぶ機会を得ている。今後はもっと相互訪問など活動を行い、サービスの質の向上に取り組むようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始しない様、必ず本人、家族に見学に来てもらうようにしている。他の利用者と一緒に遊ぶ、つを食べ、ホームの雰囲気を感じてもらっている。また本人の状態に合わせ、信頼関係を築くため自宅への訪問も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	白菜漬けの漬け方や、調理時の野菜の切り方、畑の野菜の作り方や花の育て方など、経験を生かし教えてもらっている。また、些細なことでも「ありがとう」と感謝の言葉を言われ、「ありがとう」の言葉の大切さや温かさを教えてもらい、学ぶことや癒されることが多い。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に本人や家族等から趣味、生活歴、暮らし方の希望や意向の情報提供を受けている。散歩時や夜勤の寛いでいる時間帯に、お茶を共にしながら思いや意向の把握に努めている。思いをうまく伝えられない方は、職員同士の気づきや家族等の協力を得ながら、行動や表情から思いをくみ取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員が日々の暮らしの様子や他の職員の気づき等の情報を得て、本人や家族等と話し合い介護計画の素案を作っている。全職員で利用者本位の観点での必要な支援を話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。その後、本人や家族等に説明を行い話し合いながら、其々の声が反映された介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状態変化の兆しに予防的に対応できるように毎日の申し送りで、利用者一人ひとりの情報交換を行い現状の把握に努めている。毎月、全職員の参加で介護計画の、実施状況の評価と見直しを行っている。状態の変化が生じた場合は必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の付き添い介助や、入院時は病院へ出向き食事の介助を行い、早期退院に向けた支援を行っている。日々の会話の中で「生まれ在在所を、もう一度訪れてみたい」とか、帰宅希望の場合は家族と連携を図りながら、実現に向けた支援を行っている。その時々要望に応じて、可能なかぎり柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等が希望する医療機関への受診を基本としている。通院は家族に依頼しているが、家族が行けない時は職員が同行し、受診結果に関する情報を共有している。ホームの一階が協力医療機関になっており月に2回、訪問診療を受け健康相談等の連携を密にしている。24時間、対応可能な医療受診体制を整えている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に本人や家族等に、事業所が対応できる最大の支援方法と看取りに関する指針について、説明を行い意思確認を交わしている。希望に添えるように本人、家族等、医療関係者、職員等で重度化や終末期に向けた方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に尊敬の念を持って接することの大切さを共有している。日々の関わりの中で対応に問題がある場合は、管理者が指導を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に取り組んでいる。記録等の個人情報は、事務所で管理、保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の流れはあるが、一人ひとりの思いを最優先しており、夜遅くまで起きている利用者には職員と一緒にお茶を飲みながらお話をしている。多くの利用者は日中は居間兼食堂に集い、おしゃべりを楽しんでいる。昭和の大家族の時代を思い起こさせるような一家団欒の雰囲気である。思いをうまく伝えられない方は、筆談等を用いて楽しい時間を共有している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に料理本等を参考にしながら、その日の献立を決め利用者も食材購入に同行している。食材の下ごしらえや調理、配膳、食器洗い、食器拭き等、其々の得意な分野で活躍をしている。全員で同じ食卓を囲み、下ごしらえや味付けを話題にしながら一緒に食事をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の体調と希望を確認している。毎日、入浴時間帯は日中であるが、朝風呂や夜間入浴の希望は出ていない。入浴を拒む場合はタイミングをみて声かけや清拭、足浴等の支援を行っている。時には浴槽に季節の香りを浮かべたり、温泉に出かけて入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくり、季節を意識したカレンダーを皆で貼り絵やぬり絵等で作ったり、利用者が毛筆で書いて作った日めくり暦等、日常生活での出番や特技を活かし、利用者の安心や自信に繋がるように支援している。利用者とは相談しながら、月間行事として全員で外出し外食や温泉へ出かけ気晴らしを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材購入同行、個人的な買物、散歩等、その日の天候や体調、思いに配慮しながら、心身の活性に繋がるように日常的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵はかけていない。外出しそうな場合は止めずに一緒に出かけている。職員間で利用者の様子を密に確認しあいながら、自由な暮らしを支援している。地域の方に声かけや連絡等の協力を依頼している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーを設置している。消防署に連絡をしてアドバイスを受け利用者と一緒に年3回、訓練を実施している。手順書をつくり避難経路、避難場所、誘導方法を身につけている。運営推進会議で地域との連携強化の働きかけを予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を個別に記録している。野菜を多く取り入れた献立と水分摂取状況をチェックし記録しており、全職員は情報を共有している。毎月の体重測定と、かかりつけ医の専門的アドバイスを受け栄養状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くゆったりとしている。転倒時の衝撃をやわらげる床材が随所に使われており、素足に心地良く快適な生活環境である。利用者の集う居間兼食堂の壁に、季節を意識した手作りカレンダーと利用者が毛筆で書いた日めくり暦が掛けてある。食事の準備をしている利用者の姿が自然体で、家庭的で安心できる暮らしの場である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>友好関係である地域の小学4年生から贈られた趣のある手作りの写真立てなどが飾られていたり、馴染みの調度品、思いのこもった写真、在宅時に使っていたテーブルや座布団等を持ち込んでいる。其々に个性的で落ち着いた居室である。本人が安心して居心地よく過ごせる工夫がされている。</p>		